

論理的思考力とは、関係を整理する力のことである。力とは、技術を使いこなす能力を意味する。そこで、正確に論理的思考力を定義すると、関係を整理する技術を使いこなす能力となる。この能力は、次の3つの力に分類できる。

言いかえる力とは、同等関係整理力である。同等関係とは、主に抽象と具体の関係である。意味を広げるのが抽象化、意味を狭めるのが具体化である。抽象化とは、絵に描きづらいような表現に言いかえることである。固有の特徴を引き出し、同時に他の特徴を捨てることである。具体化とは、絵に描きやすいような表現に言いかえることである。固有の特徴を与えることである。例えば、みかん、ぶどう、バナナが具体であり、果物が抽象である。ペン、消しゴム、定規が具体であり、文房具が抽象である。言いかえる力とは、単語レベル、文レベル、文章レベルで抽象化・具体化することにより、発信者の抱えているイメージを受信者に対し、ありのままに届ける、あるいは、受信者がありのままに受け取るための力である。

比べる力とは、対比関係整理力である。

- ① このボールは大きい。                      それに対して、あのボールは小さい。
- ② このボールは軟らかい。                      それに対して、あのボールは硬い。
- ③ このボールは大きい。                      それに対して、あのボールは硬い。
- ④ このボールは大きくて軟らかい。 それに対して、あのボールは小さい。

対比の観点は、①が大きさ、②は軟らかさである。③は、観点がずれている。そのため対比が成立しない。④は、大きい・小さいという反対語により、一つの対比は成立している。しかし、もう一つの対比である軟らかい・硬いの観点が半分消えている。そのため、バランスのわるい文章となっている。対比関係の整理とは、発信・受信の際、観点とバランスに意識を向けていくことを意味する。

たどる力とは、因果関係整理力である。因果関係とは、原因と結果の関係である。因果関係が成立するとは、なるほどと思えることである。10人中8人が、なるほどと思えるかどうか、すなわち客観性が高いかどうか。これが、正しい因果関係の一つの基準となる。

「この公園にはゴミ箱がない。だから、ゴミ箱を置くべきだ。」という文と、「この公園にはゴミ箱がない。そのため、ゴミが散らかって公園が汚れている。だから、ゴミ箱を置くべきだ。」という文とでは、後者のほうが客観的な説明になっている。このような関係を因果関係と呼ぶ。客観性を維持しながら原因・結果を順にたどっていく力がたどる力である。